

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所概要(事業所記入)			
事業所番号	2873600411		
法人名	医療法人社団 西はりまクリニック		
事業所名	西はりまグループホーム昌仙庵		
所在地	たつの市誉田町福田780-40		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成30年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2873600411-00&PrefCd=28&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター
所在地	姫路市安田四丁目1番地 姫路市役所北別館3階
訪問調査日	平成30年10月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体で、隣接する診療所との医療連携を取っていることで、適切な医療を24時間対応で受けられる。また、日々のリハビリ(物療)や筋力維持のためのパワーリハビリを受けることも出来る。希望があれば、可能な限り看取りまで行う方針である。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太子北インター下りてすぐの山間にある、医療機関が開設しているグループホームである。理事長である医師の思いが詰まった理念と、グループホーム独自の基本方針を基本として、熱意ある管理者はじめ職員が、協力してケアに取り組んでいる。アットホームな雰囲気と、利用者や家族からも話やすく、職員同士も話やすく、お互いに思いやりをもって対応されている。隣接して特養もあるが、利用者家族は、可能な限り最期までこの昌仙庵で看てほしいとの希望があるほど、信頼を得ている。日々の取組みは、管理者と職員が連携して利用者のことを優先して考えておられ、笑顔での対応、活す医療から支える医療に、お世話する介護から自立を支援する介護へ、と地域貢献の理念を実現するため、全員で取り組んでいる。今後の更なる行動に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 評価	第三者	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念や施設の理念(基本方針)は、ケア会議などで振り返り確認出来ている。また、理念に応じたケアを心掛けている。	法人理念とそれに基づいて職員みんなで話し合って創り上げた「昌仙庵の基本方針」が事業所内に掲示されている。法人理念と基本方針について、職員は、ケア会議で日々の実践状況を振り返る中で意義について触れ、ケアの更なる向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の立地条件上、地域と日常的な交流はないが季節の行事で交流をしている。	地域住民とのクリスマス行事の折に、老人会の15人程の方々が踊りを披露してくれる。演歌歌手の来訪があったり、地域の高校の吹奏楽部による楽器演奏やボランティアの受け入れも行われている。併設のリハビリテーションセンター広場で開催される秋祭りには地域住民・利用者・家族も参加し交流の機会となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的には行っていない。運営推進会議で地域の民生委員さんとの情報交換を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族さん、民生委員さん、市の担当者の方から意見や助言をいただきサービスに活かしている。	2地区の民生委員・市職員・家族・事業所職員がメンバーとなって、2か月に1回定期的に会議が開催されている。会議では運営状況の報告だけでなく、相談や意見交換も行われている。運営推進会議の機能を更に充実させていくためにも年間のテーマを創り上げたり、会議内容に工夫を行うと共に地域包括支援センター職員やボランティア等の参加メンバーを広げていくことが望まれる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールや電話で連絡を取り合っている。また、グループホーム連絡会で意見や情報交換を行っている。	市の職員が2か月に1回開催される運営推進会議には参加されており、日常的には市の職員に家賃助成について相談したり電話・メールで連絡を取っている。グルプホーム事業所連絡会、たつの市圏域合同ケア会議、たつの市包括ケア会議などで情報交換することもある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	立地条件上の安全確保のために玄関の出る際には暗証番号形式の施錠を行っている。また、身体拘束が必要な利用者には家族への説明を実施して同意書をもらっている。運営推進会議で毎回検討をしている。	事業所前にある駐車場付近で以前に事故が発生した経験があり、利用者の安全を守ることを最優先にして玄関の施錠が行われてきている。これまでに事業所内及び運営推進会議でも玄関の開錠について協議した経緯がある。現状、外部から事業所に入ることは可能であるが、利用者の自由な外出は限定されている状況である。「身体拘束をしないケア」についての学習会・研修は行われていたが、直近1年間は実施されていない。	玄関の施錠が身体拘束に該当することを職員全員で改めて認識すると共に法人理念と昌仙庵の基本方針に立ち返り、職員及び関係者の意識変革を図りながら例えば、時間を限定しての部分的開錠を図るなどの工夫を試みるなどの取り組みを望みたい。また年間研修計画を策定して定期的に「身体拘束をしないケアの実践」について学習会・研修を実施してほしい。	

自己 評価	第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケア会議での話し合いや医療安全委員会でアクシデントやインシデントについて検討している。ホール内に防犯カメラの設置をしている。	事業所では、虐待の防止のために日々の暮らしの中で、インシデント、アクシデントの発生状況をチェックし、その内容についてもケア会議の中で話し合っている。またホール内にカメラが設置されている。職員が抱えるストレスの軽減策として職員のケアに気を配ると共に話しやすい環境に気を付けている。虐待の防止に関する研修・学習会は実施されていないので年1回以上の定期的な研修・学習会の実施が望まれる。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々のケースに応じて管理者やサービス担当責任者が対応している。	現在、成年後見制度及び日常生活自立支援事業の利用者はおられない。制度についての研修・学習会も実施されていない。また事業所内に利用者家族等への情報提供のためのパンフレットは設置されていない。	制度の概要を理解して利用者家族等を支援するために地域包括支援センター職員を講師に招くなどして年1回は定期的な研修・学習会を実施することが望まれる。また事業所内の見やすいところに制度についてのパンフレットを設置してほしい。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に家族と十分に話し合いを行っている。不明な点や不安な点を聞いて説明し、施設で出来ること出来ないことも説明を行っている。退所時にも十分な説明を行っている。	事業所の見学、提供するサービス内容についての説明の後に、契約書・重要事項説明書を一旦自宅に持ち帰ってよく読んでいただいてから事業所にて契約を結んでいる。重度化に至った場合の対応についても説明が行われている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会で意見や要望を伺っている。また、普段から親しみやすい関係を築き、面会時などにも意見・要望などが言いやすい環境づくりに心掛けている。	年1回、運営推進会議の折に家族会が開催され、参加している家族全員の発言をいただく場となっている。それ以外の運営推進会議開催時や面会時、行事開催時でも参加家族から意見・要望を伺ったりしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やケア会議など職員の意見を聞く機会を設けている。また、普段でも言いやすい環境づくりに努めている。必要に応じて代表者に相談している。	ユニットごとに管理者が配置され、各ユニットでケア会議、ユニット会議が開催されている。各ユニットの朝礼や会議で職員が意見・提案を言いやすい環境作りになっている。運営に関して職員から面談の要求があり、提言が行われて、その後課題解決した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、人員配置や給与水準の引き上げ、手当の拡充など就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上のためにそれぞれに応じた研修が受けられるようにしている。また、初任者研修や実務者研修などの受講など提案し介護福祉士有資格者育成に努めている。		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話から、言動や表情などの変化に気づけるように心がけている。 意思疎通が難しい方の場合には家族を通じて本人の思いをできるだけくみ取れるよう心掛けている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の来所時に近況報告をし、家族が求める要望や思いを伺う。家族の要望をもとに職員で話し合い、解決策を考え、家族とより良い関係づくりに努めている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの情報提供や本人との関わりのの中から、その時、必要なサービスを考えてケア会議などで話し合い、必要であれば訪問歯科や隣接する医療施設での受診やリハビリを提案・紹介を行っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人との会話の中から、嗜好や趣味・経験などを聞き、共感したり、意見の交換をしながら同じ目線で会話を出来るように努めている。 また、本人が手伝えることは共に行き、日々の暮らしを共に過ごしている関係を築いている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や、手紙・電話での近況報告や意見交換を行っている。 面会時などに、一緒にお茶を飲んでもらったりすることで、本人の様子を知ってもらいと同時に可能であれば手伝っていただいたりし、共に本人を支えていく関係を築けている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が面会に来られたり、馴染みの人が利用されている隣接する施設の行事への参加やサービスの利用をしている。 また、外出行事の際は、本人の要望を聞き、出来るだけ本人が行きたい所へ行けるように心がけている。可能であれば、家族と自宅への外出・外泊を勧めたりしている。	隣接のクリニックにリハビリに行った折やリハビリテーションセンター広場で行われる法人行事の秋祭りの時に知人や近所の人に出会うことがある。福祉ゾーン内にある喫茶店や近隣神社、敬老会行事で赤とんぼ広場などの馴染みの場所に出かける支援が行われている。	

自己 第3	者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や余暇活動を通して利用者さん同士が関わり合えるような声掛けに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移動先にも利用者の詳細な情報を提供し、本人・家族の心配事や相談にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動・表情や、本人の意見や思いを傾聴し把握に努めています。そして、出来る限り本人の思いにそような介助を務めています。	アセスメント情報を踏まえた上でケア会議で得た本人情報をユニット内の職員全員で共有し、日々の関わりの中で声を掛け、把握に努めており、言葉や表情などから本音をそれとなく推し量りながら確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族、以前利用されていた施設サービス・事業所などから情報をいただき、経過把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者さん個々の考え方や過ごし方を尊重し、職員の考え方を押し付けないようにしている。また、食事量や排泄状況・表情からその日の状態把握に努めています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な介護計画の作成や見直し、ケア会議など関係者が集まり話し合いの場を設けている。	職員担当制が敷かれ毎月1回ケア会議が開催されて利用者の状況が確認され、ユニット内で情報共有が図られている。月1回モニタリング、評価が行われ、半年に1回担当者会議が開催されて介護計画の見直しが行われているが、その経過を表す記録が確認できなかった。	チームで作る介護計画を念頭に置いて介護計画作成に至るモニタリング・評価の記録、担当者会議の記録など一連の経過が分かる記録整備が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人ケース記録、他では口頭での申し送りや、連絡ノート、またケア会議・ユニット会議で情報を共有している。		

自己 評価	第 三 者	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内外での行事や、会議などでの交流を図っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族により主治医は決めてもらっている。(大半は隣接するクリニックがかかりつけ医となっている。)専門的な医療が必要な時は他の医療機関と協力している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。法人母体のクリニックが隣接していることもあり、利便性からほとんどの入居者は法人のクリニックをかかりつけ医としている。クリニックでは月2回の受診支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、定期的に訪問をしてもらっている。その際、情報の交換や相談を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合、情報提供書の作成や実際の面接などで情報交換を行っている。	入院に際しては本人の基本情報が速やかに医療機関に届けられている。入院中は病状把握を兼ねて見舞いが行われ、必要に応じて洗濯ものの交換も行われている。退院に際しては退院後の継続的な支援に努められている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療との連携をとり、重度化や終末期の利用者について主治医と相談をし、チームで情報を共有して必要に応じて看取りも支援を行っている。	入居契約時に「看取りについての指針」を示して事業所における看取り介護の考え方を説明し同意書を取っている。入居後、段階的に説明を加えると共に医師より利用者家族への説明、看取り介護計画の作成、看取り介護の実施が行われるようになっているも、この1年間に看取り介護の事例はない。事業所における看取り介護の考え方、支援内容について改めて職員への周知を望みたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の実施や隣接する医療機関と連携を取っている。		

自己 評価	第三者 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練の実施や会議で防災マニュアルの確認行っている。	法人全体で年2回、昼夜想定避難訓練、初期消火訓練、通報訓練を実施するようにしている。火災・地震・水害・台風に対する防災マニュアルを作成し、全職員で共有し災害発生に備えている。運営推進会議で地域の方々に協力要請を行うと共に自然災害の発生に備えて水、レトルト食品等の備蓄も行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長年の生活や家人から人となりを伺って、1人ひとりに応じた対応や声掛けを行っている。	職員は、利用者一人ひとりのひととなりを把握した上で、その方を尊重した声掛けや対応に努めている。入職時に言葉使い・声掛けなどの必要最低限の接遇研修を行ってはいるが、年間研修計画を策定して継続的に研修を行うまでには至っていない。全職員を対象に年1回以上、利用者の誇りやプライバシーの確保について具体的に確認していく機会を持つことが望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や何気ない行動も観察して、声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動などは、本人の意思を尊重し体調も考えて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の髭剃りや定期的な散髪の実施、また利用者と一緒に服を選んだり時にはお化粧をしてりしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、栄養士さんの献立以外の食事作りやおかし作りを行っている。また、利用者の方と一緒に洗い物やテーブル拭きなど利用者が出来ることを手伝ってもらっている。	毎日の食事の時間は、職員も一緒に同じものを食べている。準備は主に職員が行っているが、利用者の中で野菜の皮むきやだしパックを詰める作業、テーブル拭きや洗い物などをしてもらっている。献立は、栄養士が立てているが、調理は全て職員で行っている。定期的に、利用者に食べたいものを聞いて調理することもある。おやつも毎月、一緒に考えて作って一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックの実施や水分量が必要な利用者には、食事やお茶の時間以外にも水分を補給してもらうようにしている。		

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実施、利用者に応じた方法で実施している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを確認してトイレ誘導をおこなっている。また、パッドやおむつなど(その時、その人)に応じたものを考えて使用している。	排泄チェック表により、介助や支援が必要な利用者については、個々のリズムを把握した上で、職員が連携して声かけしたり、紙パンツを定期交換したりしている。退院後にオムツ使用していた利用者に、以前のように紙パンツに戻す取組みは、体調や利用者の様子をみながら戻せたこともある。自立の利用者もおられるが、時間があまり空いている場合にはそっと声掛けするなど、それぞれに配慮しながら対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を行ったり水分補給を促したりしている。薬剤も医療と相談して利用者に応じた対応を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望に添うようにしているが、時間や介助者の性別、本人の状態(身体面、精神面)や安全面を考慮すれば、すべて希望に添うことは難しい。	全ての利用者のタイミングや希望を聞けてはいないが、ひとりずつの入浴介助を行っている。利用者全員が週に2回から3回の入浴ができるように考えて予定はしているが、心身の状況等により、優先順位を考えて変更することもある。日曜日は行っていないが、体調不良などで、入浴できない場合には清拭を行うなど利用者の楽しみと、清潔保持の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安全面を考慮して居室やホールで休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や用法・容量の変更があれば薬情で確認している。また、希望者には居宅療養管理指導を管理薬剤師に依頼している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の能力に応じて家事手伝いを行ってもらったりしている。また、テレビやビデオ鑑賞、パズル、ぬりえなど本人がしたい余暇活動を行っている。		

自己	者	第三	項 目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期は、施設周辺の散歩や利用者が買い物の希望があれば行きたい場所へ外出する機会を作っている。また、月に一度、行事の日を設けてお花見や外食など普段とは違う環境にふれることで良い刺激を与えられるようにしている。	散歩のコースはいくつかあって、道路側に出る場合には、周りの工場などの関係で大きな車も通るため必ず車等で出かけることにされている。山側のリハビリテーションセンターの広場までは、時々散歩や行事などでもいくことがある。業務日誌には、散歩に出かけたら記録し、情報を共有している。家族から外出や運動の希望もあったことを受けて、体を動かす機会を意識しておこなうようにされている。	散歩や体を動かす機会をつくろうと取り組まれているが、実施した記録もわかりにくく、利用者全体としての計画をしたり、記録をわかりやすくされて、できるだけ偏らないないように工夫をされてはと思う。
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在の利用者の状況を考慮して、トラブルにならないように家族の了解を得て施設で管理担当者を決めて管理している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、対応している。		
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、掲示物を変えたりして季節感を感じられるようにしている。	玄関を入ると食堂兼居間が広く明るく見渡せ、窓も各方向にあり天窓もあって通気も良い。台所からも利用者が見えて、家具の間も広く車いすも通りやすい。夏は暑くなりすぎるくらいで、カーテンやすだれなども使いながら風通しや採光、エアコンでの温度調整などで調整されている。畳コーナーでは、洗濯もののたたみやテレビ、洗濯物干などいろいろに利用されており、利用者はそれぞれに決まった席で食事される。編み物など趣味が同じ利用者は同じ机にするなど、配慮されていた。壁には、要望のあった職員の紹介や、当日の勤務者、食事の献立や合同作品や写真など職員手作りの壁面飾りがあった。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が集まり過ごせるように、テーブルを配置している。利用者の状況に応じた対応もしている。		
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の中には家で使用していた家具を配置したりしている。また、家族の写真を飾ったりしている。	自宅から持ち込まれたたんすや机、チェストやテレビが置かれて、過ごしやすい空間となっている。また、家族の写真や、作品、カレンダーが壁面に貼られて、家族に囲まれているように個々の好みや家族の思いなどで、利用者が過ごしやすいように配慮されている。居室の掃除は、以前は自分で行っていた利用者もおられたが、現在は職員が毎日行っており、清潔で過ごしやすいようにしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで対応している。ホールの椅子は横から転落しないようにひじ掛け付き。		